

藤井一興 (Fujii Kazuoki) ピアノ

2020年1月8日「水曜日」◎午後7時開演「6時30分開場」
東京文化会館小ホール(JR上野公園口前)◎入場料4000円(全自由席)

第35回 齋藤行クラリネットリサイタル

Robert Alexander Schumann (1810~1856)

シューマン

のタバ



1/8 Wednesday
The 35th KOH SAITOH CLARINET RECITAL 2020

PROFILE

齋藤行◎国立音楽大学でクラリネットを大橋幸夫、浜中浩一両氏に師事。1977年同卒業後、西ドイツ国立北西ドイツ音楽アカデミー・テットモルトに留学。クラリネットをJ・ミヒヤエルス教授およびハンス・D・クラウス教授に学ぶ。1980年同アカデミーを最優秀1等賞で卒業後、アカデミー指揮科で指揮法を学ぶがたわら、ソリストとして、リサイタルやラジオ・TV出演などで活躍する。帰国後はソロコンサート・室内楽・指揮・編曲などを中心に多岐に活動をしている。また、20年にわたって青山学院大学吹奏楽部常任指揮者を務め、現在は青山学院大学OB吹奏楽団常任指揮者として活動している。

Designed by Ge-Qi Xia Photo by Naitoshi Iwanaga

ドイツ・ロマン派音楽における標題音楽、自由音楽形式の祖で、哲学と文学に深い精神の基礎を持った知性の音楽家ロベルト・シューマン。自ら創刊した音楽雑誌『音楽新報』において、メンデルスゾーン、ショパン、ベルリオーズ、ブラームスなど優れた音楽家を世の中に紹介。自由で新しい音楽を強力に支持し、シューベルトの伝統をさらに押し進め、歌曲を確立していった。シューマンの名曲、歌曲『詩人の恋』作品48のほか、チェロやヴァイオリンの名曲を、演奏者齋藤自身の編曲によって、あらたなシューマンの本質に迫る試み。

I. 連作歌曲集『詩人の恋』 作品48 [全16曲] (1840年) / 編曲: 齋藤行

II. クラリネットとピアノの為の民謡風の5つの小品 作品102 (1849年)
原曲: チェロとピアノの為の民謡風の5つの小品 作品102 / 編曲: 齋藤行

III. クラリネットとピアノの為のソナタ 第1番 イ短調 作品105 (1851年)
原曲: ヴァイオリンとピアノの為のソナタ 第1番 イ短調 作品105 / 編曲: 齋藤行

PROGRAM

後援◎一般社団法人日本クラリネット協会 協賛◎株式会社ビュッフェ・クランボン・ジャパン 銀座山野楽器本店5F管楽器フロア
コンサートマネジメント◎ミリオンコンサート協会 03-3501-5638 CNプレイガイド 0570-08-9990 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

©2020 KOH SAITOH